

<金標準、米国財務省、金利抑制でドル安容認・・・>



(出所：オアシス)

米国債務残高が 19 日に 40 兆ドルを超え、10 年足らずで 2 倍の拡大を示している。そのため米国 30 年債の金利は 2007 年以來の 5.339% まで達するなど、「債券価格のラウト(暴落)」と呼ばれていたが、ベッセント財務長官は長期債の金利抑制を主に 9 月 9 日から現行 20 億ドルの国債買いオペを 11 月 4 日まで 40 億ドルに増額を行うと発表している。特に CNBC のインタビューでは「40 億ドルを更に増額する可能性もある」と言及するなど、財務省が金利のイールドカーブ・コントロール (YCC) に向けた動きの一步と受け取られてもおかしくない処置を講じている。特に YCC は調整の矛先を債券市場から為替市場へと移す事で、米国ドルは弱体化させる効果が出て来る。その動きは NY 金が 18 日に 4396.5 ドルの安値から 21 日は 4690.4 ドルまで高値を試すなど 293.9 ドルの上昇を行っており、ポジティブサプライズの要因となっている。そのため金標準先物も 23500 円を固めながら更なる高値である 25000 円へ向けて戻りを強めた値動きを続ける可能性は高まったと思われる。

<テクニカル>

金標準先物の日足の MACD では、MACD が上昇し、シグナルも上昇している。RCI は短期が高値を維持し、長期も 75% を維持している。特に指数平滑移動平均線のレンジが上昇を示し、日足が高値追いを行っている事からも強気の域と判断するのが妥当に思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行ってください。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 5,175,000 円(2026 年 8 月 24 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 5 倍から 50 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 100,320 円(2026 年 8 月 24 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>